

第3回東海村“自分ごと化会議”議事概要

参加者	<ul style="list-style-type: none"> ■自分ごと会議メンバー <ul style="list-style-type: none"> ・無作為抽出で選出された村民 7名, 県立東海高校生 2名 ■コーディネーター <ul style="list-style-type: none"> ・熊井 成和 (一般社団法人 構想日本 特別研究員)
-----	---

◇ **開会 (上野)**

◇ **講話「自分ごと化会議の意義について」 (一般社団法人構想日本 代表理事 加藤秀樹)**

◇ **第3回“自分ごと化会議”の進め方等の説明, 全体協議**

◇ **第2回会議までの振り返り, アンケート結果について**

◇ **第3回会議の進め方について**

- 提案書 (素案) を基に議論する。
- 項目ごとに確認 (修正、追加) していく。

◇ **全体協議**

01~05 東海村“自分ごと化会議”の実施概要～公共施設の“ありたい姿”の考え方

事実関係をまとめたものであるが、ご意見はないか。

- 特になし

06 東海村公共施設の“ありたい姿”の15の提案

提案1から提案7までは公共施設に共通するありたい姿。提案8以降は提案7の「真の価値、目的を大切にしてい」から派生。提案8から提案12までが個々の施設の有効活用、提案13から提案15までが個々の施設の収益性について。具体的な方策 (案) を優先度に応じて整理を行う (中長期的に対応するものと短期的に対応するもの)

- 提案6の言い回しについて整理を行う。
- 横文字が分かりづらいので補足説明や言い換えを検討する。

06 提案1「村全体、エリア、施設の各ビジョンをつなげたい。」について

- 提案書では、方向性 (ありたい姿) を示すことまでで留め、具体的な施策に落とし込むことまでは想定しない。

06 提案2「施設間の連携や施設内の機能を連携させたい。」について

- 定期的に巡回するコミュニティバスの導入を検討するのはどうか。
- 住民から「(公共施設を利用して) こんなことをやりたい」と相談があったときに、用途に見合った施設 (目的に縛られずに) を案内する総合窓口があれば、おのずと連携が広まるのではないかと。例えば、アイヴィルの会議室の予約が取れない際に、姉妹都市交流館の会議室を案内するなど。

06 提案3「まずは村民に知られる公共施設にしたい。」について

- SNSでの情報発信の際に、各世代によって適切な媒体を選択することが重要ではないかと。例えば、高校生世代に対してはInstagramを検討するのはどうか (高校生世代はFacebookやXよりもInstagramの利用者が多い)。

- 自治体も様々な媒体を使って住民に情報は伝えているが、届いていないことが問題の中心ではないか。

06 提案4「アクセスしやすい公共施設にしたい。」について

- 利用者が施設にアクセスしやすくすることを前提として考えるのではなく、サービス提供者側（行政）が利用者に近づくことも考えるべきではないか。例えば、アイヴィルに行政手続きができる機能（戸籍や課税証明書の発行等）を持たせて出張所として位置付けるなど。
- 次世代を見据えた新しい技術（自動運転や無人運転等）導入についても提案書に記載しても良いのではないか。
- 既存の公共交通の便を拡充することも重要ではないか。
- 公共施設の拠点までの「足」を考えることも重要ではないか。
- 駐車場の適切な量を考えるためには、ニーズを把握することが大切である。

06 提案5「すべての人に優しい公共施設にしたい。」について

- 一部の施設で欠陥があるにしても、行政は十分優しい運営をしているのではないか。バリアフリーも相当進んでいる。
- 私たちでできることは、マナーを守って、来た時よりも美しくする意識を持つこと。

06 提案6「すべての人が利用しやすい手続きにしたい。」について

- 現金払いの併用をすることによって、みんなにとって使いやすいのではないか。
- アナログで支援するのではなくて、デジタルに変えてデジタルでやることを支援する。
- デジタルを導入することで、手続きが繋がって便利になることが重要ではないか。

06 提案7「公共施設の真の価値、目的を大切にしてほしい。」について

- 目的に対する達成率や成果を村民に対して目に見えるようにすることが大事ではないか。

06 提案8「人同士のつながりを大切にしたい。」について

- ネットが発達するにつれて、実際に会って触れ合う場所が重要であると再認識した。
- 高校部活動と地域の方との世代間のタイアップを考えるのも良いのではないか。

06 提案9「防災機能を整えたい。」について

- 地域に即したコミセンと防災に特化したコミセンに機能を分散させるべきではないか。
- 防災に関する拠点を定めて、コミセンはそれを補佐する役割として位置付けるのはどうか。
- 拠点となるコミセンは村の直営として、それ以外のコミセンは自治会などに運営を委託するのはどうか。

06 提案10「自宅と職場以外の居心地の良い場としての役割を持たせたい。」について

- 「私たちができること」の項目に、趣味、興味に関連するような講習やイベントがあれば、参加していただくことを追加。
- 井戸端会議が出来る場所として捉えるのはどうか。
- 今の時代であれば、地域密着型よりももう少し範囲を広げて世代間交流の場所にもなるのではないか。

06 提案11「新しい魅力を創り出したい。」について

- 東海十二景の要素を提案書に入れ込んでも良いのではないか。
- 地域の中で新しい魅力になりうるものを見かけているはずなので、そのきっかけ（発信）をどう育てていくかが重要ではないか。

06 提案12「再編視点で機能の集中と選択を考えたい。」について

- コミセンを減らしてもよい人・減らしたくない人もいるので、双方の立場の人を入れて議論した方がよい。
- 村としてコミセンを減らす方向で進めるのであれば、色々な意見を話すことができる場を作ってほしい。

- 再編＝潰すことではなく、施設ごとに機能を振り分けることではないか。
- アイヴィルは有効活用から目的を探っているように思うので、再編の対象になるのではないか。

06 提案 13「施設の目的と利用者の状況を踏まえた適正な負担を考えたい。」について

- 利用率の高い施設は、少し料金を上げて良いのではないか。
- 施設は本当に使うべき人が使えないと意味がなく、そのための料金設定を見極める必要がある。
- 現状のままで良いのではないか。
- 施設維持管理費はかかるので、維持管理費＝利用料金などコンセプトを決めて利用者負担額を決めるべきではないか。

06 提案 14「コストをできるだけ抑える手法を考えたい。」について

- 施設を利用する人が維持やメンテナンスに携わることで、管理部門の人員を減らすことが出来るのではないか。
- 施設の利用予約がなければ、東海高校生の部活に施設を貸し出し、ギブアンドテイクとして清掃をしてもらうのはどうか。

06 提案 15「新しい収入の道を考えたい。」について

- ネーミングライツ制度を利用して、維持費に充てることはできないだろうか。
- 財源確保は、公共施設だけではなく、他事業含め全体で考えるべきではないか。

◇ 村民メンバーから一言

「公共施設のありたい姿を考えるにあたって、一番大切にしてほしいことはなんですか」という問いかけに対し、以下のような意見が出されました。

- 多くの人に利用してもらえる情報が発信され、まずは行ってみたいくなること。
- 安心と満足感が得られ、誰にとっても優しく、人同士の繋がりのある場所。
- 公共施設の真の目的というものを大切にしてほしい。
- 村の財政を圧迫しないこと、行政の効率化の効率化。
- 弱者にも優しい社会を目指し、分散している施設の集約。
- 人と人とのつながり。

◇ 施設所管課・事務局からのコメント

◇ 主催者から一言

山田村長) 公共施設は設置管理条例に基づき目的をもって運営しているが、時代とともに住民のニーズも多様化し、使用用途も変化している。村としても、どのような取り組み(手続き方法の見直し)をすれば施設の利用率が上がるのか考えており、自分ごと化会議で出された意見や提案を参考にしたい。ただ、提案の中には、村として短期的に取り組むものと中長期的に取り組むものがある。いただいた提案を基に、それぞれに応じて適切に対応していきたいと考えている。

◇ 閉会